

助成年度：平成 23 年度

〔所属〕 北海道大学 サステナビリティ学教育研究センター

〔役職〕 特任助教

〔氏名〕 石村 学志

〔課題〕

東北地方太平洋沖地震震災後の気仙沼地域再建に向けた延縄漁業の生物経済分析と地域復興プログラム開発

〔内容〕

本研究課題が対象としている気仙沼近海延縄(きんかいほえなわ)漁船団は、メカジキとヨシキリ鮫を主要漁獲としている。東北大地震後、陸から遠く離れた東経漁場で操業していた本船団は、18 隻中 16 隻が生き残ることとなった。漁業インフラを失った気仙沼にとって、生き残った近海延縄船団の効率的運用は地域再生、そして復興への足掛かりとなろうとしている。本研究は、震災に見舞われた気仙沼で生き残った近海延縄操業の漁獲行動分析による漁業経営改善を軸にした地域復興プログラムの可能性に焦点を当てる。漁船のみの利益構造分析、経営再建だけでなく、その漁獲が加工業を通じて地域に与える社会経済的影響をモデル化し実証研究を行い、気仙沼における震災後の漁業と地域経済再生のための地域復興プログラムを提案することを目的として実施された。

今回の分析において顕著になったのが、近海延縄船団におけるメカジキ漁の依存であった。メカジキ漁の効率化と安定が、船団の経営安定に結びつくことが示唆されている。その一方で、震災前からのデータ分析では、ヨシキリ鮫漁の利益が出てこない構造であることが明らかになった。2012 年 4 月より操業形態が個別操業から集団操業へと移行し、大きく変わってきた。この変化を示すデータの蓄積が現在必要になっている。さらに、現在、復興が遅れている加工業の再建を引き続き追うことで、最終的な地域復興プログラムを示していく必要がある。